

1. 総説

1 岩泉町の歴史と沿革

岩泉町は、東は太平洋に臨み、西は盛岡市及び岩手郡に接する広大な地域のため、沿革も極めて複雑になっています。

全地域にわたって石器や土器等が出土し、縄文時代早期初頭の土器も発見されていることから有史前（8000年前）に既に住民がいたことが証明されます。伝承によれば、小川国境の伊底羽神社、有芸の伊豆神社、小本の熊野神社が大同年間（806～809）の創立といわれているところから、この地方一帯の開創は坂上田村麻呂の東征と関係があり、この時代から大和民族が居住したものと考察されます。

この地方が史書、古文書に見えはじめるのは、元弘建武の頃からで、褓綿に北畠顕家の子孫が代々居住して地方民から褓綿御所と尊称されたのが正平年間（1346）頃からであり、三上元綱の子孫が二升石に居住したのもこの時代からです。

本格的なこの地方の集落の開創は九戸政実が南部氏に滅ぼされ、豊臣秀吉が奥州の諸所の城を取り壊し、また測量検地を行い、武士階級の者を南部氏の城下（三戸）に集中し、一地一作の本百姓の制度を打ち出した（奥州仕置）時代、即ち南部 26 世信直の慶長年間以後からです。褓綿御所北畠氏もこの時代に直接支配していたところを捨てて南部氏の家臣となり、また穴沢氏、岩泉氏、大川氏、小本氏、中里氏等が南部藩からこの地方の支配を命ぜられたのもこの時代（文禄 3 年頃、1594）頃からです。

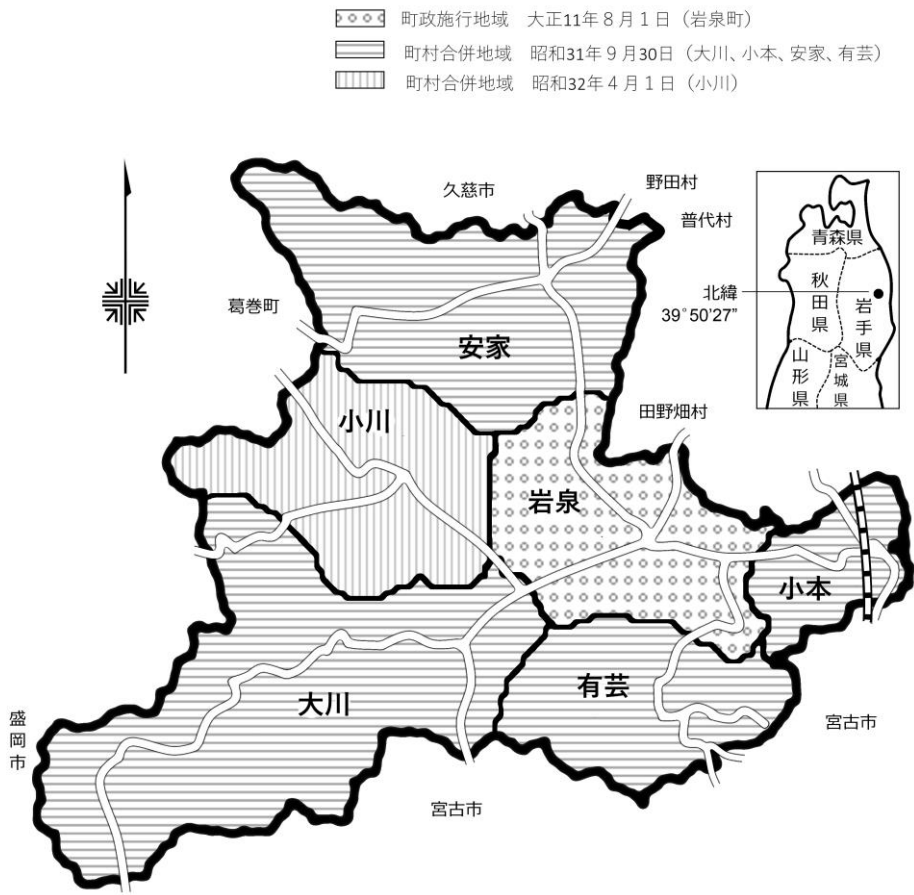
享保 20 年（1735）南部藩内を 33 通りに分け、原則として一通り一代官を配した際、当時の区域は野田通り（安家、岩泉）、上田通り（小川）、宮古通り（小本、有芸、大川）の支配に属し、小川地区は後に宮古通りに編入されましたが、その後再び上田通りに復帰しています。藩政時代の当町の村は、門村、穴沢村、褓綿村（以上小川）、釜津田村、大川村（以上大川）、二升石村、尼額村、岩泉村、乙茂村、猿沢村、浅内村、鼠入村（以上岩泉）、褓野村、中里村、中島村、小本村（以上小本）、上有芸村、下有芸村（以上有芸）及び安家村の 19 箇村でした。

明治維新になり、明治 2 年 8 月に江刺県が遠野に置かれ、閉伊郡はその管轄に属しました。明治 4 年 11 月 2 日廃藩置県の制が敷かれ、翌 5 年盛岡県を岩手県と改称。宮古に支所が置かれていましたが、この時従来の藩政当時の行政方式は改められ戸長制度となり、県内が 22 区に分轄され、明治 9 年 4 月、県下各郡の区域が改められ、県内に 494 村 80 箇所の扱い所が設けられました。明治 12 年、従来の閉伊郡が東、西、南、北、中の 5 郡に分けられましたが、岩泉町の区域は、北閉伊郡の区域内となり岩泉村に郡役所が置かれました。

明治 22 年 4 月 1 日に町村制が施行され、この地域の 19 箇村は各々隣接村と合併して小川村、大川村、岩泉村、有芸村、安家村、小本村の 6 箇村となりました。岩泉村は大正 11 年 8 月 1 日町制を敷き、岩泉町外 2 か所組合（有芸村、安家村）役場とし、岩泉町に役場を置きました。

昭和 3 年 10 月 31 日、岩泉町有芸村、安家村は、岩泉町組合役場を解除し、11 月 1 日各々独立しました。昭和 31 年 9 月 30 日町村合併促進法に基づき岩泉町、大川村、小本村、安家村、有芸村の 1 町 4 箇村が合併し、翌 32 年 4 月 1 日新市町村建設促進法により小川村を編入合併し、ここに※面積 992.36 平方キロメートルの岩泉町が生まれ現在に至っています。※令和 5 年 10 月 1 日現在（境界未定のため、推定面積）

2 町域の変遷と位置・面積



○岩泉町の極範囲	極東	岩泉町小本字茂師	141° 57' 06"
	極西	岩泉町釜津田阿部館山	141° 19' 03"
	極南	岩泉町釜津田高森	39° 40'
	極北	岩泉町安家遠別岳	40° 24'
○役場の位置	東経	141° 47' 44"	北緯 39° 50' 27"
	標高	110m	
○役場の所在地	岩手県下閉伊郡岩泉町岩泉字惣畑 59 番地 5		
○岩泉町的面積	面積	992.36 k m ²	
	※境界未定のため参考値（令和5年10月1日現在）		
	東西	51km	南北 41km

地区別面積

区分	地区	総 数	岩 泉	小 川	大 川	小 本	安 家	有 芸
面 積 (k m ²)		※992.92	194.97	172.50	289.76	49.14	※211.87	74.68
構成比 (%)		100.0	19.6	17.4	29.2	5.0	21.3	7.5

注) 1) 岩泉地区には鼠入、森山、鼠入甲地 24.95 k m²を含む。
2) 岩泉地区には大川地区から 16.32 k m²（浅内、落合、松野、大沢）、有芸地区から 4.45 k m²（上中倉）を、加えた数値。また、大川地区・有芸地区からそれを除いた数値。（60.4.1 の行政区域変更による。）
※ 境界面積は、境界未定のため推定面積（平成元年 11 月 10 日現在）

3 地 形（地勢地質を含む）

岩泉町は、北上山地の東部、下閉伊郡の北部に位置し、東方は太平洋に臨むとともに、その一部を田野畑村及び宮古市に接しています。西方は葛巻町及び盛岡市に隣接し、南方は宮古市、北方は普代村、野田村並びに久慈市の1市2村に接して、その広さは東西 51 km、南北 41 km、面積実に約 992 k m²で本州随一の大きな町です。

岩泉町は、四囲標高 1,000m～1,300m の高山に囲まれ地形は極めて陰阻で、耕地は少なく、林野率が高く、河川は小川の国境及び大川の釜津田より源を発して太平洋に注ぐ流路延長 96 kmの小本川、及び安家森に源を発する安家川、並びに峠の神山に源を発する摂待川の 3 川があり、この流域に沿って帯状の耕地を有し集落を形成しています。

岩泉町は地質学上北部北上帯に位置しています。北部北上帯は古生代後期から中生代後期にかけて、深海底に堆積した泥岩、チャートを主体としています。町内の広い範囲がそれらの固く固まった岩石からなり、急峻な地形をなす要因となっています。また、岩泉町から久慈市にかけては安家石灰岩をはさみ、石灰岩独特のカルスト地形が発達しています。

北部北上帯が南部北上帯と合体して北上山地がつくられた直後の中生代白亜紀には、北上山地の地下深くに大量の花崗岩類が貫入し、その後の長期にわたる侵食によって、現在は地表に広く露出しています。その中でも田野畑岩体、宮古岩体は広く、風化して真砂土となることから、花崗岩地帯では土砂災害が起りやすいです。

白亜紀前期には陸地の周囲の浅い海に宮古層群が、白亜紀後期には内湾に沢廻層、湖に横道層が堆積しました。さらに新生代古第三紀には二升石流紋岩が貫入し、その西方にできた湖に小川層群が堆積しました。沢廻層以後の堆積や貫入は小本川断層によって生じた地溝帯で行われ、小本川はこの地溝帯に沿って流れています。小本川断層および地溝帯堆積物は侵食に弱い岩石からなる小本川流域では平地が形成され、集落が発達しました。

新生代新第三紀に北上山地は隆起に転じ、第四紀に入ると隆起が加速するとともに、氷河期の海水面変動とが連動して大規模な海岸段丘が海岸線付近に形成され、現在に至っています。

4 岩泉町の誕生

合併までの経緯

年月日	場 所	参 集 者	顛 末
昭 29.8.31	岩泉町役場	岩泉、小川、大川、安家、有芸の各町村長、委員	1 町 4 箇村合併協議会を設ける申し合わせ
29. 9. 4	下閉伊地方事務所	1 町 7 箇村の各町村長、委員	合併計画策定の答申について県審議会と協議
29.10. 3	岩泉町役場	1 町 7 箇村の各町村長、委員	町村合併について懇談会
30. 5.30	〃	1 町 7 箇村の各町村長、正副議長	〃
30. 6. 3	小川村役場	岩泉、小川の各町村長、議員	〃
30. 7.18	岩泉町役場	1 町 5 箇村各町村長	〃
31. 8.15	小川村役場	1 町 5 箇村各町村長、正副議長	小川村に合併参加要請
31. 8.23	岩泉町役場	1 町 5 箇村各町村長、正副議長	町村合併促進協議会規約を決定
31. 9. 3	〃	県高野主事、1 町 4 箇村協議会委員	1 町 4 箇村合併基本方針を協議
31. 9. 6	〃	県吉田主事、1 町 4 箇村協議会委員	新町建設計画策定について協議
31. 9.11	〃	〃	新町建設計画を策定
31. 9.15	各町村役場	議員（各市町村毎）	廃置分合処分申請関係案を議決
31. 9.30	1 町 4 カ村合併	新岩泉町発足	
31.12.27	岩泉町役場	1 町 5 箇村町村長、正副議長	岩泉町、小川村と合併知事勧告を受く
32. 1.29	小川村役場	小川村議会議員	協議の結果結論を得ず
32. 2. 5	〃	〃	村議会において12対9で岩泉町合併可決
32. 2.25	岩泉町役場	岩泉町、小川村三役、議員、学識経験者	合併条件の検討
32. 3. 3	〃	〃	〃
32. 3. 7	〃	〃	岩泉町に小川村を編入合併協議成立
32. 3.11	岩泉町小川村役場	両町村議会議員	両村議会合併を議決
32. 4. 1	小川村編入		現在に至る